

森づくり最前線

福島森林管理署白河支署 大屋森林事務所 首席森林官 高林 昭雄

私の勤務する大屋森林事務所は、福島県中通り南部に位置する白河市の一部(旧大信村)、天栄村、須賀川市の国有林約7,100haを管理しています。阿武隈川の支流の隈戸川上流にあつて、標高400〜1,000mの里山が多く、スギやヒノキの人工林地帯です。地域の水源地となつていることから、水源涵養機能の発揮を重視した管理経営を行っています。

また、国有林の一部はレクリエーションの森に設定して、広く国民の皆様へ提供しています。その一つ、旧大信村にある聖ヶ岩地域には、ビジターセンターやオートキャンプ場が設置されています。近郊の住民の皆さんの憩いの場として幅広く利用されているほか、毎年ゴールデンウィークに行われる権太倉山(標高971m)山開きには、県内外から多くの



聖ヶ岩キャンプ場

登山者や観光客が訪れて賑います。晴天時には山頂から猪苗代湖や羽鳥湖が望めます。

白河市郊外の赤仁田スポーツ林は、標高450m〜730mの緩傾斜地で、ゴルフ場に隣接しています。ゴルフ練習場と管理棟が設置されており、主にゴルフ場の来場者に利用されています。

管理している国有林では、下刈、除伐、保育間伐等を実施し、森林整備を進めています。

東北自動車道矢吹IC近くにある中新城地域には、石炭・石油などの化石燃料に変わる自然再生エネルギーとして、間伐材等を燃料にした木質バイオマス発電所があり、今後、森林系チップの受け入れ量が増加していくと見込まれます。森林再生・林業の活性化につながると期待されており、国有林材もお役に立てるよう



権太倉山山頂からの羽鳥湖

にしていきたくと考えています。

なお、旧大信村の国有林の一部には、東京電力福島第一原発事故の影響で、空間線量が比較的高い場所が出を合わせている箇所があります。そういった箇所については、定期的に空間線量を計測し、今後、線量が低下したことが確認できた森林の木材の伐採や搬出を再開することとしています。

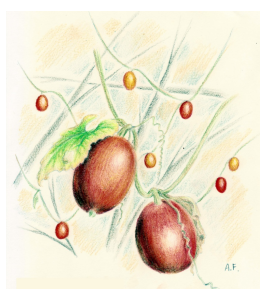
近頃、国有林内で、アカマツ枯れの倒木が多く見受けられるようになってきました。地元からの要望もお聞きしながら、住宅・幹線道路への被害が想定される枯木については優先的に処理しています。

マツクイ虫によるアカマツ枯れ被害は年々拡大しており、森林の経済的機能と公益的機能の調和を図りつつ、植栽から収穫に至るまで虫害等

に強い森林づくりに取り組む必要性を感じています。

また、管内には国と契約を結んで国有林に木を植えて一定期間育てた後、樹木を販売し、その収益を国と一定の割合で分け合う「分収造林」が多く、今その多くが伐採時期を迎えています。契約相手方の方に現在、国有林が取り組んでいる低コスト化対策等の情報を提供しながら、未来ある森林づくりに努め、「地方創生」へ繋がるよう引き継いでいきたいと思ひます。

これからも地域の要望・要請をよくお聞きし、地域の期待に応えられるよう尽力するとともに、林業の成長産業化に貢献出来るよう「より良い森林づくり」に微力ながら邁進したいと思ひます。



カラスウリ(鳥瓜)
つる性の草本。手のひら大の赤い実は、葉が枯れ残りを残し、冬の林内によく目立つ。

発行所 関東森林管理局
編集総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1366